

セルフウェザーゲーム（参考資料）

（2015年8月29日版）

京都大学防災研究所矢守研究室

※本ゲームは、現在開発中です。そのため、本資料はゲームの主旨や流れを紹介するものとなっています。ゲームの詳細等ご興味のある方は、担当までご相談ください。

1、目的

災害が起こる際には、たくさんの災害情報が社会にあふれます。気象情報もその一つです。しかし、気象情報がよく当たるようになり、より利用しやすいものに改良されていく一方で、実際の災害の際には、情報ばかりに頼ってしまいどうしようか考え待ってしまう場合や、情報から十分な危険がわからない場合もよく見られます。

セルフウェザーゲームは、気象情報と地域の災害との関係について、意識を高めることを目的に、参加者個人にとっての気象情報を考えることを通して、様々な気象情報の危険性について確認し、気象情報に対する主体的な災害時の利用を高めま

2、ゲームコンセプト

<セルフウェザーゲーム～あなたにとっての気象情報～>

このゲームでは、あなたの友人のある登場人物に、様々な気象情報が届けられます。そのとき、その登場人物がどう思うかを考えながら、その気象情報が登場人物にとってどのくらいの危険を意味するのか、グループに分かれて、楽しみながら考えていきます。

このゲームの目的は、防災気象情報の危険性やレベル化を身近な視点で学ぶとともに、気象情報をただ受け取るのではなく、自分自身にとってどのような危険度を示し、地域でどのようなことが発生しうるのか考える機会を持ち、そこから自分自身にとって重要な「あなたにとっての気象情報＝セルフウェザー」を考えることにあります。気象情報も、登場人物によってそのような危険度に違いがあること、またゲームに参加する人によっても考える危険度が違うということを知る経験を通して、防災気象情報について、改めて考え直し、自分にとっての重要な気象情報はどのようなものなのか考える機会を提供し、気象情報を利用する意識を高めてもらうものです。

- ・自身で考える → 自分にとって重要な気象情報を考える
 - ・自分で判断する → 地域性の高い身近な情報として利用する
 - ・自分以外の人のために → グループの他の人のことを考える
 - ・危険度の時間的変化 → レベルによる危険度の違いを確認する
- ⇒テーマ：相手にとって危険で、地域にとって身近な災害を気象情報から考え

ることを通して、自分自身にとって重要な気象情報を考える。

3、具体的方法

では、具体的な方法を確認していきましょう。

(1) 準備

ゲームは、司会者と5名程度の複数のグループに分かれて行います。

ゲームを始める前に参加者一人一人に、レベル1～レベル5の5枚のレベルカードをそれぞれ配っておいてください。また司会者は登場人物カードとレベル1～5の気象情報カードを用意します。気象情報カードは決められたものでもいいですし、ゲームを行う地域に合わせて作成したものを利用していてもいいでしょう。なお、オリジナルの気象情報カードを作成する際は、添付のレベルと地域の現象の説明書を参考に作成してください。(※現在作成中)

準備ができましたか？それでは始めましょう。

(2) 登場人物の紹介

まず司会者からゲームの登場人物を紹介します。なお、人物はどのような人でも構いません。場合によっては犬や猫などのペットでもいいでしょう。紹介する際は、登場人物の状況がよりわかるように具体的な補足を入れながら話すといいでしょう。

(3) 天気の紹介

次に、司会者は、レベル1～5の気象情報カードを回答者の方々に紹介します。レベル1から順にレベル5まで読み上げてください。意見や考えが偏らないように、この時はあまり詳しいことは言わずに、単に書かれたこと読み上げるだけとしてください。

(4) レベルカードの提示

ここからが参加者の出番です。

ゲームの参加者は、登場人物やその家族の仲のよい友人という設定です。登場人物が安全な場所に移動したり、何らかの行動した方がいいと考えるレベルカードをそれぞれ選んでください。考えている間は、それぞれどれを選んだか言わないようにしてください。時間は30秒です。もし、実際に登場人物に似た人が身近にいるのであれば、その人に重ね合わせて考えてみるといいでしょう。

時間が経過したら、司会者の合図のもと、声を出して一斉に選んだカードを出していただきます。「あなたの危険なレベルは〇〇です！！」

(5) みんなの意見を確認しよう

グループ内で選んだカードを確認してみましょう。確認が終わったら、それぞれの参加者が順番に、なぜそのレベルを選んだかを話し合ってください。

※自主防災の関係者であれば、地域でどのような対応が必要かも併せて議論するとよいでしょう。

(6) レベルの再提示

全員が意見を話したら、再度レベルを提示してもらいます。みんな危険と感じる基準は違うかもしれませんが、登場人物が危険を回避できるかは皆さんにかかっています。災害時に助かるかどうかは、そのときどう判断するかで決まります。後戻りはできません。真剣に考えて決めましょう。

用意はいいですか？せーの、「あなたの危険なレベルは〇〇です！！」先ほどとどう変わったでしょうか？確認してみてください。

(7) 気象情報の説明

最後に司会者から、気象情報カードのレベルと現在の気象情報の関係について、説明を行います。みんなが考えた身近な危険は、普段聞くどの気象情報と関係していたでしょうか。確認してみましょう。

また司会者は、今回の登場人物カード裏の注意点に書かれている内容を補足してください。登場人物の状況により、気をつけるべき状況は変わることを説明します。また垂直避難など、場合によっては避難所に移動することだけが避難ではない点を説明しましょう。

ゲームは1問当たり説明等も含め20～30分程度が目安となります。まず気象情報編、そして地域気象情報編と続けて行くと、気象情報と地域の関係をわかりやすく確認できます。

また1, 2問程度終わったら、次はグループの参加者の一人を登場人物に見立てて行ってみると、よいでしょう。

4、応用編 ～あなたにとってのセルフウェザーを考えてみよう～

ゲームでは、ある登場人物にとっての注意すべき気象情報について、グループで考えました。では、参加者の皆さんにとっての注意すべき気象情報はどのようなか？セルフウェザーシートに、自分が注意すべき地域の状況と、それにつながる気象情報を書いてみましょう。

帰ったら、家族で確認し合うことも忘れずに！！

